

「作戦」をブラッシュアップ

「ごみ問題」の専門家招き環境授業

羽村武蔵野小

羽村市川崎の市立武蔵野小学校(海東朝美)でもみり校長、児童数440人は10月28日、「ごみ問題をテーマに「わたしたちだからできること」と題した総合的な学習の一環で、環境の専門家5人をゲストティーチャーに招いた授業を行った。写真。

環境問題を考える授業のゲストティーチャーを西東京リサイクルセンター(羽村市緑ヶ丘)の大橋徳久さんと島田善道さん、西多摩衛生組合の伊藤一紘さん、羽村市リサイクルセンターの石川忠弥さん、同市生活環境課生活環境係の高橋和嗣さんがそれぞれ務めた。同校では地域の人や施設、行政や企業などを招いて話を聞き、体験を通して社会とのつながりを意識し主体的



を再構築していった。5年2組の児童40人は「分別」や「生ごみ」「ペットボトル」「プラスチック」など9班に分かれて、それぞれ「生ごみを肥料化する」「学校にリサイクルボックスを置く」「ポスターやすごろくを作ったくさんの人に3Rを知ってもらおう」など自分たちで考えた課題解決の方法について専門家の意見を聞いて視野を広げ、「自分たちの作戦」をブラッシュアップした。

西多摩衛生組合の伊藤さんは「皆さんが考えた自分たちでできることを、身近な人に伝えて広げ、世の中を変えていけるように」と呼び掛け、西東京リサイクルセンターの島田さんは「今日は、逆に勉強させていただいた」と話していた。